

## ナミビア大学農学部設立支援

協力ネットワーク開発研究部門

教授 北川 勝弘

本センターの発足(本年4月)に先立つ3月下旬の2週間、センターの初仕事として、国際協力事業団(JICA)の依頼による「ナミビア大学農学部設立支援プログラム」に関する予備調査に出かけた。ナミビア共和国は、1990年3月に南アフリカ共和国から独立したばかり。そして、ナミビア大学農学部も1995年に設立されたばかりで、1998年1月にタンザニア人のマンデメレ教授が大学執行部から学部長に指名され、ようやく学部運営体制が整備されつつある段階であり、ナミビア人教員スタッフの早急な養成と学部カリキュラムの適正化など、農学部の中身づくりが現下の急務となっている。

ナミビア大学の本部や他学部は、首都ヴィントック市内のはずれにあるが、農学部は昨年1月に、ヴィントックの郊外30kmほど離れた広大な畑の真っ只中に移転した。このノイダム・キャンパスには、管理棟、講義棟、学生寮、食堂、および一部の実験施設が建設されており、現在、図書館と動物科学棟が建設中である。農学部の構成は、農業経済学・普及学科、動物科学科、作物科学科、食品科学技術学科、天然資源科学科の5学科からなりたっていて、最後の天然資源科学科はさらに、環境科学、水産科学、林業学、野生生態管理学の4コースに細分されている。また、アンゴラとの国境に近い、ナミビア北部の小都市オシャカチの郊外、オゴンゴという小さい村のはずれにナミビア大学農学部の分校がある。この場所に、今年度中に作物科学科棟が建設される予定で、それが竣工し次第、作物科学科の教

員や学生たちはこちらに移転する予定だという。ナミビア北部は、圧倒的多数の非白人ナミビア人が居住し、零細な規模の農業に従事している地域であり、作物科学科が本拠を置いて、農業・農学の教育、研究、技術普及にあたるには最適な場所といえよう。ただし、マラリア危険地帯でもあることが少々気になるところである。

## プロジェクト支援・評価活動の紹介

プロジェクト開発研究部門

助教授 門平 睦代

### 1 パラグアイ農学教育協力にかかる研究研修会

パラグアイへ派遣される短期JICA農業教育専門家は、国全体における中等(中学、高校レベル)農業教育課程とその内容の調査を行い、中長期構想への助言をするという任務を与えられています。この派遣事業に関連してセンターは名古屋大学大学院生命農学研究科の教官(派遣予定者も含む)を中心として、パラグアイの農業についての研究研修会を開くことにしました。科学研究と現場をつなぐ人づくりにむけた研究研修会です。JICAなどから事前に資料を収集したり、パラグアイで実際に農業技術の移転活動にかかわった方々も講師としてお招きし、専門分野への助言や現状の分析などについて意見交換をして、派遣前に業務に必要なと思われる知識を確実なものにすることが目的です。また専門家帰国後は報告会を開催し、収集したデータやその分析結果などを記録に残し、研究会として継続的な協力体制を築くことも目指しています。第1回目の研究研修会は、平成11年8月9日に、第2回目は9月28日に名古屋大学グリーンサロン東山・セミナー室にて開催されました。

